

I ICTを利用した言語活動での論理的読解力の育成について

～ 国語科(説明文)「パラリンピックが目指すもの」の実践から ～

令和3年度全国学力・学習状況調査(国語科)において、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することに課題が見られた。ICTを活用して、主体的・対話的で深い学びにつながる質の高い言語活動を設定し、3年生で初めて要約を学習する単元の「パラリンピックが目指すもの」の授業実践を行った。

1 実践の具体

① 目的の明確化

児童が課題意識をもって主体的に学習を進めるためには、目的を常に意識することが大切だと考えた。そのため、課題の設定の仕方や相手意識の高め方を工夫し、要約をする目的の明確化を図った。

② 1人1台端末の活用

どの児童も根拠をもって大事な語や文を選択し、要約できるようにするために、思考ツールとして1人1台端末を活用した。端末を用いることで、児童の説明文を読み取ることへの苦手意識の克服を目指したり、児童の交流活動の活性化を図ったりした。

2 実践の成果と今後の方向性

児童とともに、単元のゴールを決めることで、最後まで単元の目的意識が途切れることなく意欲的に取り組むことができた。また、相手意識をもつことで、児童自身が学ぶ必要感をもつことができた。県版テストでは、説明文の思考力・判断力・表現力の数値が、98%にまで上昇し、その後も90%以上を維持している。目的を明確化した授業展開は、どの教科においても、児童が主体的に学ぶ手立てになると考える。今後は、思考ツールとしてのICT活用についてさらに考え、実践していきたい。また、児童の「わかった!」「できた!」を一つでも多く増やし、児童と一緒に喜べる学習を目指したい。

I ICTを共通言語とした現職教育の推進について

～ 現職教育主任としての実践を通して ～

本研究は、急速なICT化の流れを従前まで蓄積してきた教育実践に組み込むことで、本校の現職教育を推進してきたものである。ICTに関わる環境整備を教員の指導力の向上につなげるために、どのような手立てが適切かを検討し、実践した。

1 実践の具体

① 現職教育とICTの融合

ICTを活用するメリットを実感するために研修及び公開授業を実施した。教員が同一歩調で実践してきた授業づくりにICTという共通言語を組み込んだ。そこで、法則化された学習指導案を用い、特に学習指導過程においては「つかむ」「つかう」「くらべる」「つなぐ」「かえる」の5つに分け、授業づくりの基盤とした。教科内で5つの学習指導過程の特性を生かしたICTの活用方法を見だし、データを蓄積した。

② 採点支援システムの活用

指導の根幹である「評価」とICTの完全導入を重ねること、および「働き方改革」の視点を加えることで、本校の実践を側面的に支えることを目的に、採点支援システムを取り入れた。

2 実践の成果と今後の方向性

環境整備を行う中で何が根本的な課題かを把握して適切な手立てを実施すること、教員がICTを活用するメリットを実感することで教員の活用実態、さらには生徒の学習意欲は高い水準を示した。教員の活用頻度が高まるにつれて実践の蓄積も集積し、教員間の交流も増えている。また、採点支援システムの導入により多くの教員は、作業の正確性・迅速性を実感しており、継続して使用したいと考えている。また、作業が早くなるだけでなく、問題別に解答の傾向をつかみやすい、学力分析ができるなど様々な効果を感じ取っていた。今後は、生徒の学習記録が蓄積するタブレット端末の効果的な持ち帰り方法の研究、生徒のデジタルシチズンシップの育成に取り組むことで、今までの研究をさらに推進していきたいと考えている。